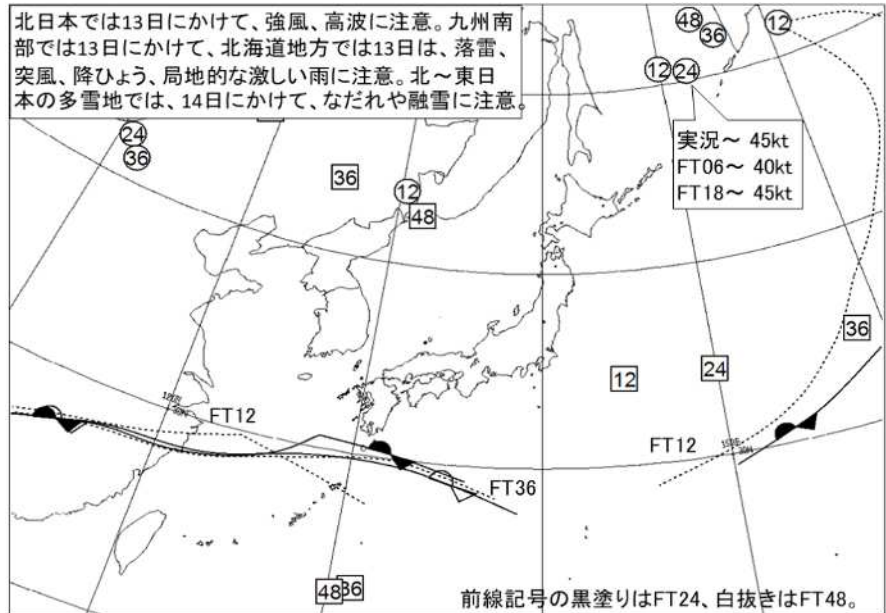


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5160m以下で-30℃以下の寒気を伴う寒冷渦に対応したオホーツク海の低気圧が北東進。
- ② 日本海付近の高気圧が東へ移動。日本は広く高気圧に覆われ、東～西日本では晴れて昇温している。①の低気圧と高気圧の間で気圧の傾きが急となり、北日本では強い風を観測。東北日本海側では沿岸で、やや高い波を観測。
- ③ 500hPa 5760m付近の正渦度極大域に対応した前線が、華中から東シナ海へのびている。前線近傍では、やや強い雨を解析。
- ④ 500hPa 5340m付近で-30℃以下の寒気を伴うアムール川中流付近のトラフが南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のオホーツク海の低気圧は、13日夜にかけてカムチャツカ半島付近へ北東進し、1項②の高気圧は13日夜にかけて日本の東を通り、日本のはるか東へ移動し、次第に日本から遠ざかる。高気圧と低気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では13日にかけて、強風、高波に注意。1項③の前線は、13日夜にかけて、種子島・屋久島付近を通り、次第に日本の南へのびる。1項④のアムール川中流付近のトラフは、13日夜にかけて、沿海州付近から北海道付近を通り、千島近海へ進む。13日は、トラフの影響で北海道地方を中心に上空の寒気が広がり、地上では気圧の谷がのびる。上空の寒気や前線に向かう850hPa 相当温位 336K以上の下層暖湿気、気圧の谷の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴う激しい雨の降る所がある。九州南部では13日にかけて、北海道地方では13日は、落雷、突風、降ひょう、局地的な激しい雨に注意。
- ② 14日は、中国東北区から日本海へ高気圧が移動する。本州付近は、この高気圧と2項①の日本のはるか東へ移動する高気圧との間で気圧の谷となり、日中の昇温による地形性低気圧の効果も加わり、東～西日本では雲域が広がりやすい。2項①の東シナ海から日本の南へ進む前線は、14日も、東シナ海から種子島・屋久島付近を通り日本の南へのびて停滞する。前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる可能性がある。南西諸島では14日は、落雷、突風、急な強い雨に留意。晴れて日中は昇温するため雪解けが進む。北～東日本の多雪地では、14日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の東シナ海から日本の南へのびる前線の位置と降水域の予想には、不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間) : 九州南部120mm。② 波浪(明日まで) : 北海道・東北3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。